日本万国博覧会記念基金事業

世界各国で助成が生かされています。

過去50年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

＜第５回＞

アユタヤ日本村（タイ）

アユタヤ日本村は、バンコクの北にあるアユタヤのチャオプラヤー川東南側のアユタヤ王朝時代に日本人町が存在した約12,000㎡の敷地に、資料館や庭園などを整備し、当時の日本人町を紹介する施設です。万博記念基金では、1977年度にアユタヤ旧日本人町遺跡の整備に助成をしています。アユタヤ日本村の管理をしている泰日協会（Thai-Japanease Association）マネージャーのパクワディー・ソンブシリ（Pakwadee Sombutsiri）さんに、アユタヤ日本村についてご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金　額
1977年度	アユタヤ旧日本人町遺跡の整備	泰日協会	7,999,999円

アユタヤ王朝は、バンコクの北80kmに位置し、1351年から400年程栄えた都で、チャオプラヤー川とその支流に囲まれた地形を生かした水運交易で発展し、ヨーロッパと東アジアを結ぶ国際貿易都市として繁栄しました。オランダ、ポルトガル、中国、日本などの外国船が多数往来し、その拠点として多くの外国人町が形成され、日本人町もチャオプラヤー川東南側に作られ、時代により800人から3,000人程度の日本人が居たと伝えられています。

鳥居と神社

泰日協会は、アユタヤ時代のオランダ東インド会社資料により、アユタヤにあった旧日本人町跡地の位置を確認すると、旧日本人町の遺跡保全のために約12,000㎡の土地を取得して、アユタヤ日本村を整備しました。

「日本人町の碑」の碑

その後、タイと日本の修好100周年の1987年に、アユタヤ歴史研究センターの別館をアユタヤ日本村に建設、修好120周年の2007年には別館内部を大幅に改装するとともに、村内に日本庭園と休憩所を設置しました。また、タイ日修好130周年の記念として、2018年にはVRストリートミュージアム技術によるアユタヤ王朝時代の日本人町の再現など、村内施設を充実させてきました。

日本庭園と休憩所

アユタヤ日本村は、ピーク時には月平均8,000人程度の来場がありました。最近では新型コロナウイルスの影響により来場者は減少しましたが、規制解除後には月6,000人程度まで回復しています。

４月のお花見、７月の七夕まつり、11月のロイクラトンナイトなど、日本やタイの文化を紹介するイベントも開催しておりますので、タイにお越しの際はアユタヤ日本村にお越しください。

お花見フェスティバル2023開会式

ビデオルーム

刀の展示

写真提供　泰日協会（Thai-Japanease Association）

2023年度助成金および奨学金贈呈式＆事例発表会

2023年7月27日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

国内外31団体に総額7,420万円を助成

関西・大阪21世紀協会は、2023年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された145件の中から31件を採択し、総額7,420万円の助成を決定しました。また、日本文化を研究する外国人留学生（大学院修士課程）を対象とした奨学金給付事業については、京都市立芸術大学、大阪大学、早稲田大学からそれぞれ推薦された５名に奨学金の給付を決定しました。

７月27日にその贈呈式が行われ、出席した国内13団体の中から、代表として３団体と留学生５名に﨑元利樹理事長から目録が手渡されました。﨑元理事長は冒頭の挨拶で、「コロナ禍も落ち着き、今後さまざまな取り組みが出てくることから、これまで以上に多くの方々に申請していただきたい。助成金・奨学金を受けられた方々には、これを有効にご活用いただいて大きな成果を上げられ、留学生の方々には、将来、日本と母国の架け橋としてのご活躍にも期待している」と述べました。

贈呈式の後、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（2022年度助成）と一般社団法人東京国際合唱機構（2023年度助成）の活動が紹介され、休憩をはさんで2024年度助成事業の募集説明会が開催されました。なお、募集説明会は福岡（８月18日）、東京（９月１日）でも実施されました。

2023年度の申請と採択の内訳

	申 請		採 択	
国内外合計	145件	4億2,949万1,000円	31件	7,420万円
国外事業者（内数）	（27件）	（1億292万5,000円）	（8件）	（2,170万円）

※申請件数145件および採択件数31件には、それぞれ2022年度の複数年度助成助成事業（継続）１件を含みます。

助成団体の活動紹介

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

〈絵本と紙芝居を通じたアジアの多民族文化継承による社会的に弱い立場に置かれた子どもたちへの支援事業／2022年度助成〉

事業サポート課 海外事業担当　竹本 舞さん

当会は1981年に日本で設立され、日本、ネパール、ラオス、タイなどアジア7か国８地域で、民族の多様性を尊重する活動や教育文化支援を行っています。近年、これらの国々では近代化やグローバル化により生活様式の画一化が進み、多様な民族が民話や口承によって伝えてきた文化や伝統が途絶えつつあります。例えばネパールでは、親が外国へ出稼ぎに出たり、親と一緒に外国で暮らしたりする子どもが多いため、民族の伝統や文化の継承が困難で、特に外国で暮らす子どもは自分のルーツを絶たれ、言葉や文化の壁もあってアイデンティティーを確立しにくく、自尊心の低下を招くこともあります。

本事業は、ネパールの子どもたちが祖父母などから地域に伝わる民話を聞いて絵本を作る「昔ばなし絵本出版活動」です。現地の図書館３館で25回実施し、694人が参加。子どもたちに自分たちの歴史や文化を学ぶ機会を提供するとともに、地域の世代を越えたつながりにも貢献しました。絵本は３種で各1,000部ずつ印刷し、ネパール国内の図書館169館に配布しました。

一般社団法人東京国際合唱機構

〈東京国際合唱コンクール事業／2023年度助成〉

実行委員会　杉村 信さん

本機構は、人と人が集い、国籍、人種、年齢を超えて対等な立場で作る芸術である「合唱」を通じ、その振興や国際文化交流、青少年育成などの社会貢献事業を行っています。その一つである東京国際合唱コンクールは、演奏を競うだけではなく、互いを認め合い、讃え合って友情を育む場にすることを理念にしています。2018年の第１回から東京都中央区と共催し、第５回となる今年は、７月29日〜30日の２日間、公民館や商業施設などで国内44団体・941名、海外21団体・630名の合計65団体・１,571名が参加します。

本コンクールは部門の幅広さが特徴で、児童合唱、シニア、学校合唱部、ユース、同声合唱、混声合唱など10部門があります。特にフォルクロア（民族音楽）部門は、歌だけではなく、衣裳や踊りなど視覚的要素も一体となった舞台芸術です。また、コロナ禍をきっかけに生まれた映像作品部門は、オンラインを通じて発信され、視覚的な演出を重視した合唱作品です。課題曲は日本を代表する合唱作曲家の書き下ろしの新曲で、海外の合唱団に日本の文化や価値観を知ってもらう機会にもなっています。

日本文化を研究する外国人留学生への奨学金給付事業

2023年度奨学生決定

万博記念基金では、「日本文化を研究する外国人留学生を対象とした奨学金給付事業」の2023年度奨学生として、５名の奨学生を決定しました。今後、日本の伝統文化を学ぶ機会や交流の場を設け、奨学生同士や当協会とのつながりを深めて、将来「日本と外国の架け橋」となる人材を育成していきます。

2023年度奨学生の声

鄭　卉芹（ジュヨン　ホゥイチン）さん〈台湾〉
京都市立芸術大学
大学院美術研究科
保存修復専攻

文化財保存修復の技術者を目指しています。日本の絵画修復技術を学び、それを世界に広め、貴重な文化財を後世に伝えていきたいと思っています。

呉　雯雯（ゴ　ブンブン）さん〈中国〉
京都市立芸術大学
大学院美術研究科
工芸専攻（漆工）

日本の伝統工芸漆と現代技術を融合し、漆の可能性を広げる研究をしています。この技術を中国でも活用し、中日両国の架け橋になりたいと思っています。

肖　藝凡（ショウ　ゲイボン）さん〈中国〉
大阪大学大学院
人文学研究科
人文学専攻（哲学）

パフォーマンス理論と哲学を結びつけ、日本映画・演劇作品の再評価と創作のための理論構築によって、文化間の対話を活性化させる成果を上げたいです。

河　璘（ハ　リン）さん〈韓国〉
大阪大学大学院
人文学研究科
芸術学専攻（美学）

日本の食文化から見る持続可能なガストロノミーについて研究しています。この成果を生かし、将来は、日本の食文化の継承や発展に取り組みたいです。

MANETTI, Anna（マネッティ　アンナ）さん〈イギリス〉
早稲田大学大学院
文学研究科
人文科学専攻（国際日本学）

日本語が分からない人でも日本の翻訳技術を学ぶことができる研究をしています。この機会を得て研究を完成させることができ感謝しています。

助成先の事業紹介

2023年度助成事業の中から、事業者より寄せられた内容をご紹介します。

火の鳥プロジェクト（日本、ポーランド、マレーシア、ブラジルの４か国による国際共同舞台芸術創作事業）

事 業 者： 特定非営利活動法人ブリッジフォージアーツアンドエデュケーション
助成金額： 500万円（2023年度）
（３年総額：2000万円）
実施期間： 2023年４月１日～2026年３月31日
2023年度 公演日2023年10月26日～29日
実施場所： マレーシア（2023年）、
ブラジル（2024年）、日本（2025年）

日本、ポーランド、マレーシア、ブラジルを代表する文化芸術団体が提携し、2022年から2025年まで、各国で舞台芸術作品の国際共同制作「火の鳥プロジェクト」を実施します。「火の鳥プロジェクト」は2022年度に第１章のポーランド公演を実施済で、2023年から2025年に舞台芸術作品の公演を行う第２章から第４章を助成対象としています。

2023年度は、小池博史演出の舞台「SOUL of ODYSSEY」（原作「オデュッセイア」）をマレーシアの共同制作パートナーと創作、公演します。「オデュッセイア」に登場する英雄と怪物を日本とマレーシアが直面している地政学的な課題と照らし合わせ、正義の意味を問い、グローバリズムと資本主義の影響を多角的に表現していきます。2024年度はブラジル・サンパウロで、2025年度は日本・東京および関西で舞台芸術作品の公演を実施します。

マレーシアでのオーディションワークショップ

ポーランド公演の様子

日本万国博覧会記念基金

1873年ウィーン万国博覧会150周年記念事業 〜日本とヨーロッパをつなぐ〜

事 業 者：KHM博物館連盟ウィーン世界博物館
助成金額：500万円（2023年度）
（２年総額：940万円）
実施期間：2022年４月１日〜2024年３月31日
実施場所：オーストリア　ウィーン世界博物館
日本ギャラリー　他

本事業は、2022年度からの複数年度助成事業（２年）で、2023年度は最終年度となります。1873年ウィーン万博の日本出展を振り返り、その意義と役割を検証するため、ウィーン万博の日本展示（美術品、工芸品等）に関するデータベースを作成するとともに、ドキュメンタリーアニメ形式の映画を制作して、明治初期の日本が一国家としてウィーン万博に参加した1873年前後の主な出来事を紹介していきます。

展示品調査の様子

展示品調査の様子

〈１年目の進捗状況〉

ウィーン万博の日本展示品について調査し、ドイツ、ベルギー、ロシア、トルコなどヨーロッパ各地で多くの展示物が確認され、データベースに登録しており、その数はさらに増える見込みです。また、ドキュメンタリーアニメの制作を開始し、脚本が完成、現在アニメーション制作中です。

〈２年目の計画〉

ウィーン万博の展示物を所蔵する博物館および美術館の学芸員を招き、公開シンポジウムを開催します。また、ウィーン世界博物館日本ギャラリーにおいて、現在制作中のドキュメンタリーアニメ映画を常設上映。ウィーン万博150周年記念イベントを日本大使館で実施します。

アニメーション・
キャラデザインラフ画

メリカルヴィア高校・佐野高校国際交流事業2023

事 業 者：メリカルヴィア高校（フィンランド）
助成金額：300万円
実施期間：2023年５月24日〜６月２日
実施場所：大阪府立佐野高等学校

本事業は、フィンランドと日本の高校生の生活を調査・比較し、両国の理解を深めていくことを目的として、メリカルヴィア高校と佐野高校が二校間で実施する教育活動です。2023年５月末にメリカルヴィア高校の生徒（10名）が10日間の日程で佐野高校などを訪問し、書道を教わるなど交流を行いました。また、８月中旬には、佐野高校の生徒がメリカルヴィア高校を同じく約10日間の日程で訪問する交換留学を行います。

書道の授業の様子

書道の授業の様子